

5. 今月のトピックス「ネギアザミウマとネギハモグリバエ」について

三重県のネギでは最近、ネギアザミウマ(写真1)やネギハモグリバエ(写真2)の発生が多く問題となっています。商品価値を著しく低下させる被害を発生させ、多発すると防除が難しい害虫です。(図1)

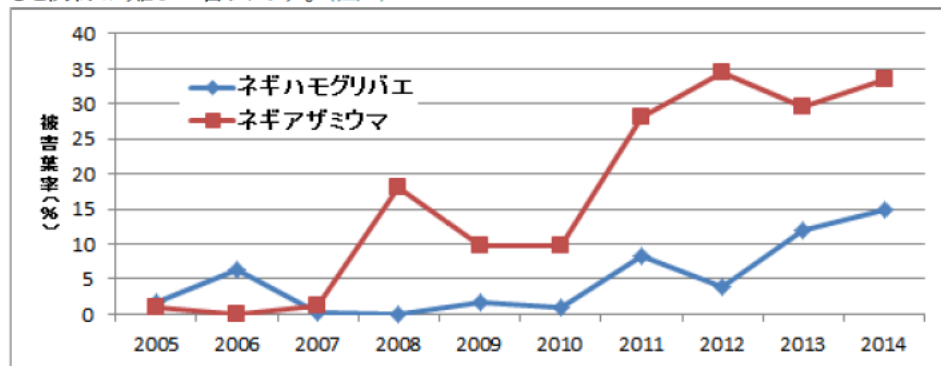


図1 過去10年間の7月のネギアザミウマとネギハモグリバエの被害率の推移



写真1 ネギアザミウマ



写真2 ネギハモグリバエ

(野菜茶業研究所・飯田氏提供)

ネギアザミウマ

◆生態◆

- ・ネギの露地栽培では早春から晩秋にかけて、施設栽培では周年で発生します。
- ・ネギ以外にも多くの作物を加害します。また、加害による被害のほか、ネギえそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)を媒介します。

◆被害の様子◆

- ・ネギアザミウマは成幼虫が葉の表面を吸汁するため、細い針金でひっかいたようなカスリ状の白い吸汁痕(写真3)が残ります。
- ・ネギアザミウマは育苗時に多発すると新葉がよじれ、生育不良になることがあります。

ネギハモグリバエ

◆生態◆

- ・成虫は、ネギの葉組織内に卵を産み付けます。
- ・幼虫はネギの葉内に潜り、内側から加害し、老熟すると地中に入って蛹になります。

◆被害の様子◆

- ・ネギハモグリバエは、針先でつついたような細かい点が一列に並んだ産卵痕(写真4)と、幼虫が葉の内部を絵描き状に食害しながら進んだ食害痕(写真5)が特徴です。
- ・ネギハモグリバエは幼虫が葉の内部に潜ることから、幼虫時の防除が困難です。

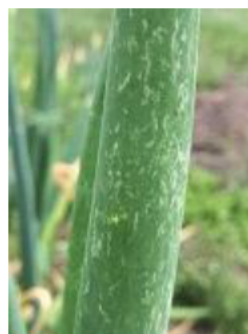


写真3
ネギアザミウマ食害痕



写真4
ネギハモグリバエ産卵痕



写真5
ネギハモグリバエ食害痕
(食害が進んだもの)

ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ両種共通

◆発生しやすい条件◆

露地栽培では高温乾燥が続くと発生しやすくなります。また、雑草を住処とするので、ハウスや圃場の周りに雑草が生い茂っている場合は、成虫の飛び込みで増殖する可能性があります。

◆防除対策◆

- 1) 圃場内や周辺の雑草が発生源です。普段から除草に努めましょう。
- 2) 多発すると防除が困難になるので、発見したら早めに防除してください。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

